

FREE ^{JMUW} vol.35
Dec. 2018

SPECIAL FRONT INTERVIEW

映画『jam』

町田 啓太 × 青柳 翔 × 鈴木 伸之

(劇団EXILE)



SPECIAL INTERVIEW
FANTASTICS
from EXILE TRIBE

JAPAN MOVE UP WEST Special Event
JAPAN MOVE UP special edition vol.17
2018.11.17 PHOTO REPORT

SPECIAL GUEST 陣 / RIKU / 山本 彰吾
(THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)

SPECIAL COLUMN
EXILE TETSUYA

日本を元気にする為に!

54
JAPAN MOVE UP WEST



自分の住む“まち”に夢、憧れ、成長を。

『JAPAN MOVE UP WEST』は子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける…
それが企業を、まちを、発展させ岡山から中四国へ、そして日本を元気にしていく事だと確信します。

JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2018年12月11日現在)

City/LIGHT TYPEX co.,ltd. VERMORE Lee GROUP 株式会社 WORK SMILE LABO

KIRIN SAITO PRINTING CO., LTD. M&A

株式会社 祥 株式会社DMM.com アシード株式会社

special partner コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟・その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局 (株式会社HEADLINE WEST / TEL:086-250-8089)

JAPAN MOVE UP WEST

●発行人/ 瀬 真典 (株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治 (株式会社ヘッドライン)
●発行所/ 株式会社HEADLINE WEST 〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング1F TEL:086-250-8089

隔月刊【ジャンムーブアップウエスト】2018年12月11日発行 vol.35 December

※本誌の売買・交換(金品を代価とする譲渡)一切禁止。本誌または掲載内容のすべての著作権は発行元に準ずる。

HEADLINE WEST

JAPAN MOVE UP WEST
SPECIAL FRONT INTERVIEW

町田啓太 × 青柳翔 × 鈴木伸之

SABU監督最新作に劇団EXILEの全メンバーが総出演!『jam』

場末のアイドル演歌歌手、意識不明の恋人のため善行を積む青年、ヤクザたちに復讐をしかける男…
ワケありの男たちが、同じ日、同じ街で交差しながら自らの行いに追い詰められ衝撃の結末へと疾走する!

主演はSABU監督の前作『MR.LONG / ミスター・ロン』にも出演した青柳翔、
ドラマ『中学聖日記』の町田啓太、ドラマ『今日から俺は!!』の鈴木伸之。
それぞれの“崖っぷち”を疾走する男たちを演じた3人による“jam”トーク!

「主人公の3人は皆それぞれ、どこか
欠落している人物なんですよね」 青柳翔



熱狂的な熟女ファンに支えられ華やかな舞台に立ちながらも心に空虚感を抱える場末のアイドル演歌歌手・横山ヒロシ。神様が意識不明の恋人を救ってくれると信じて善行を続けるタケル。自分を刑務所に送ったヤクザに復讐を仕掛け、追い回されるテツオ。まったく異なる状況にある3人の主人公の運命が、交差しながら響き合い、やがて怒涛のクライマックスに突入する…！ 三者三様の主人公と物語、テイストが入り乱れるまさにjamのようなエンターテインメント。

青柳翔(以下:青柳):僕が演じるヒロシは場末のアイドル演歌歌手という役どころなんですが、SABU監督の脚本もすごく面白くて、難しくもやりがいのある役だなと思いました。ヒロシ自身は真剣なんですけど、作っている曲がちょっと滑稽だったり、カルト宗教家みたいなファンミーティングをしたり、あげくにファンに拉致されるという、いろいろと要素が面白い役でした。まあこの中なら、ヒロシ役は僕でしょうね(笑) たぶん監督は当て書きしてくれたんだと思います。僕は前作の『MR.LONG / ミスター・ロン』にも出演させていただいて、何度か食事にご一緒させていただいたり、ベルリンにも同行させていただいたりしているので、きっと監督は僕を眺めながら心の中で、コイツ性根が腐っているなど思われたんでしょうね。だからヒロシのようなキャラクターを当て書きしてくださったんだと思います(笑)

町田啓太(以下:町田):僕が演じるタケルは、意識不明の恋人を救うために善行を積み重ねているという、一見すごく良い青年なんですけど…ちょっと変態性がある人物なんです。僕もSABU監督からこんなふうに見えているのかな、と思いながらタケルという役を受け止めました(笑)

青柳:主人公の3人は皆それぞれ、どこか欠落している人物なんですよね。タケルは善い行いをしている良い人なのになんか気持ち悪い感じが、町田の瞳にすごくよく表れていた(笑)

町田:良い人が行き過ぎると、腹の底が知れない感じがするというか、気味悪くも見える、そういうところを監督が上手く引き出してくださったんだと思います。タケルは神様に恋人を救ってほしくて“見える”までになってしまった人。そういう人物が一線を越えると、けっこうヤバいんだろうな、と。愛情と憎悪が表裏一体の、ギリギリのラインで自分を保っている人物だと思います。

鈴木伸之(以下:鈴木):タケルは町田くんにぴったりだと思いました。好青年さとか清潔感もあって、一見、すごくイメージ通り。でも良い人が行き過ぎると気持ち悪くも見える感じをすごく上手く表現しているなと思いました。僕が演じたテツオは、まさに“鉄の男”。トンカチを手に片っ端から敵に向かっていく。ほとんどずっとアクションで、セリフは一言も無いという役は今回が初めてだったので新鮮でした。僕はアクションが大好きなので、SABU監督の作品の中で思う存分、暴れ回らせていただいたのは本当に楽しかった。監督からは、後半になるにつれテツオが悲しいヤツに見えるように演じてほしいということと言われていたんですが、脚本

の段階からそういう部分がきちんと描かれていたので、僕はただそれをアクションをしながら表現していけばよかった。セリフが無い分、魅せられるアクションをやらう、と集中して全力でやらせていただきました。

完成した作品を見て、印象的だったお互いのシーンは？

青柳：僕が町田のシーンで印象に残っているのはタケルがハンドクリームを塗る姿の気持ち悪さですね、僕は好きですけど(笑) 鈴木のところは四つんばいになってトンカチを2回叩くところ(笑)

鈴木：ありましたね(笑) 僕はタケルがブラジャーを拾うところが個人的に萌えポイントでした(笑) すごく自然な感じで。

町田：そんなに自然だった(笑)？

鈴木：よく拾ってるのかというくらい自然でした(笑) 青柳さんは、本当にこういう演歌歌手いるよな、と思いましたね。よくこういう役を青柳さんに当てようとしたな、と監督の目の付け所が面白いと思ったし、それがまたびったりだったので、すごいな、と思って。

町田：青柳さんの歌唱シーンは死ぬほど面白かったです(笑) 台本より膨らんだヒロシがそこにいて、すごいなと思いました。目が笑っていない感じとかもヒロシの性根を現しているようだったし。あと、監禁されているのに歌の練習を本気でやっているシュールな感じとか、あれは青柳さんじゃないと出せないなと思いました。普通だったらただ怖がるだけだったり、サスペンシブになると思うんですけど、青柳さんが絶妙なコミカルさを出している。完成作を見て、今回はSABU監督と青柳さんの悪だくみが半端なかったなと思いました。

青柳：あの部分、僕は監督にちゃんと確認したんです。後半部分、もはや逃げようとしていないけどいいんですか、って。普通は、ああいう状況で少しでもスキがあれば逃げようとするじゃないですか。だから聞いたら監督は“大丈夫、ヒロシはバカだから!”って(笑)

町田：その“普通は”というセオリーが全部、覆されるような作品ですよ。とくに青柳さんのパートはそのバランスが難しいのに絶妙だったと思います。のぶ(鈴木伸之)はほぼ全編がアクションで、体格を生かしてダイナミックに、でも俊敏に動けるのがすごいと思った。あれだけの大人数に立ち向かっていくとか普通だったらあり得ないでしょ、なってしまいそうなところも、この人なら本当にいけると思わせてくれる。テツオはのぶにしかできないだろうなと思って見ていました。

それぞれの撮影現場の様子も気になるころ。

町田：僕は、青柳さんの浜辺でのシーンの撮影がどんな感じだったのか気になっているんです。すごくいい具合に、顔にビニール袋が張りついてたんじゃないですか(笑) CGじゃないですよ。すごく

大変だったんじゃないですか？

青柳：大変だった(笑) まず、なかなか顔に来なくて。3回くらいやったけど顔に来なくて、しまいには自分でやります、と言ってやってみただけどそれもうまく行かなくて。最終的に糸を使ったりして、やっとできたんですよ。

町田：あれ難しかっただろうなと思ったんですよ。

青柳：ヒロシがビニール袋が張りついて息が上手くできなくて、目を覚ましたら昌子の顔が目前にあって。寝てる間に昌子にチューされたんじゃないかという錯覚と、夢がリンクしているという演出なんです。

町田：すごく印象的でした(笑)

鈴木：僕はやっぱり車から昌子が飛んでいくシーンですね。あれこそどうやって撮ったのか。そして、笑っていいのかどうなのか(笑)

町田：昌子役の筒井(真理子)さんが吊られてたりして、現場はかなり面白い状況でした(笑) 監督は絵コンテを全部描かれるんですが、その場面の絵コンテを見たら“昌子ロケット”と書いてあって…

青柳・鈴木：ははは(爆笑)

町田：僕はテツオが世良(小澤雄太)に刺された後のリアクションが印象的でした。あれは誰が刺したか分かってたの？

鈴木：刺されたシーンの僕のリアクションですか(笑) あれは、刺された瞬間、世良の顔は見えていなかったんですけど、刺し方で世良だと気づいたということで(笑)

青柳：あ、これは世良だなって(笑)？

鈴木：こんな不器用に刺してくるのは世良しかいないなって(笑)

青柳：全員が集まったときに絶対この話、出そうだね(笑)

町田：小澤さんとのぶで、あのシーンを再現してほしい(笑)

劇団EXILEの総出演も本作の見どころの1つ。

青柳：劇団EXILE全員で映画をやるというのが今回初めてだったので、本当に良い機会を頂いたと思います。



「今回はSABU監督と青柳さんの悪だくみが半端なかった」町田 啓太

町田:『HIGH&LOW』にそれぞれ出演したことはありませんけど、劇団EXILEだけで、全員そろって映画にというのは初めてでしたからね。

鈴木:今回はこの3人が主人公でしたけど、もしかしたら次は他のキャラクターがメインになっても面白そうですね。僕たちが右往左往している一方、このキャラクターにはこんなバックボーンがあって、実はそこでまた別の運命が交錯していた…とか。いろいろ膨らんでくる作品になったと思います。

町田:劇団EXILEって、見事に全員が個性バラバラで(笑) それがかようなふうになると相乗効果が生まれるというか。それを発揮できる場が、今後もっと増えてもいいなと思いますね。

鈴木:世代もバラバラだし、みんな個性豊かな人ばかりだから全員そろっていろいろできて面白いですよ。今回の作品で劇団EXILEの新たな可能性を見せることができたと思うので、また違ったテイストの作品も撮れたら面白いだろうなと思います。

青柳:僕らは全員で一緒に歌ったりパフォーマンスをするグループではないから、はっきり言ってあまりまとまりは無い(笑) でも仲が悪いかというとそんなことなく、けっこう仲がいいんです。このバラバラ感が集合したときに大きなエネルギーとなっていると思うので、今後もこのような作品を作り上げることができたらな、と思っています。

町田:ファンの人は誰がどんな役を演じているか、それぞれ細かく見てもらっても面白いと思いますし、まったく知らない方も楽しめる、いろんな感情がジャムみたいにつまった映画になっているので、ぜひ劇場に足を運んでいただきたいです!

鈴木:初めての劇団EXILE映画総出演ということで、僕らにとっても思い入れの強い作品となっているので映画館で観てもらえればうれしいです。

青柳:最高のサスペンスアクション大作なので!

鈴木:そうなんですか?

町田:“因果応報”は?

青柳:因果応報サスペンスアクションエンターテインメント大作なので!

「劇団EXILEの新たな可能性を見せることができたと思う」鈴木伸之



『jam』 イオンシネマ岡山 他 全国にて公開中

監督・脚本・編集:SABU

出演:青柳翔、町田啓太、鈴木伸之他/1時間42分/LDH PICTURES配給/

<https://ldhpictures.co.jp/movie/jam/>

©2018「jam」製作委員会



SPECIAL INTERVIEW

FANTASTICS from EXILE TRIBE

EXILEの弟分にあたる新グループ、FANTASTICS(ファンタスティックス)が

12月5日、シングル『OVER DRIVE』をリリースしデビュー。

EXILEの活躍を体感しながら育った「Jr.EXILE世代」のグループで、EXILEで活躍する世界と佐藤大樹がリーダーを務める。

いま全員で同じスタートラインに立った彼らにインタビューした。



——デビューシングル『OVER DRIVE』がリリースされました。

佐藤大樹(以下、佐藤):率直にうれしいです。結成してからそろそろ2年。やっとスタートラインに立てたという気持ちです。

木村慧人(以下、木村):これまでそうしてきましたが、改めてプロとしての自覚を持って、頑張っていこうと思っています。

瀬口黎弥(以下、瀬口):スタートラインに立てたという気持ちと同時に、越えなければいけない高い壁にもぶち当たっていくと思います。その壁はこれまで以上に高いと思うので、チーム一丸となって進んでいきたいです。

澤本夏輝(以下、澤本):FANTASTICSのパワー、エネルギーを、全国に向けてガッツとさせるのが楽しみです。“from EXILE TRIBE”というのがグループ名にもつので、EXILE魂を受け継いでいくのですが、FANTASTICSだからできる受け継ぎかたをしていきたいと思っています。

堀夏喜(以下、堀):率直な気持ちは、すごくワクワクしている、ですね。よりパフォーマンス面で強化をしたいし、それに対応できる体づくりをしていきたいと思っています。いまEXILEさんのドームツアーに帯同させていただいているなかで自分たちのデビューに向けても準備が整えられると期待していますし、そうなると思っています。

世界:僕は素直にうれしいです。9人でデビューしたかったというのがありますけど、9人の想いがあるのでそれを伝えられるように頑張っていきたいです。

——ボーカルの2人はFANTASTICSが結成してから、オーディションを経て、グループに加入。いまの気持ちを教えてください。

八木勇征(以下、八木):「EXILE Presents VOCAL BATTLE AUDITIONS ~夢を持った若者達へ~」、夢者修行、そして今帯同させていただいているEXILEさんのツアー……。短い時間のなかで本当にたくさんのことがあって、濃い時間が続いています。この1年で自分自身の進化を感じていますし、FANTASTICSとしても進化していけるように、これまで以上に頑張りたいです。

中島颯太(以下、中島):デビューで、アーティストになりたいという夢が叶います。ボーカルとして、9人の思いを全部乗せて、言葉だったり表現を大事にして、“from EXILE TRIBE”に恥じないようなパフォーマンスができるよう頑張っていきたいです。

——リーダーの世界さんと佐藤さんに、EXILEでも活動している2人から見て、FANTASTICSの現状についてどう感じていますか？

佐藤:パフォーマーだけで1年活動したところで、ボーカルが入って。そのくらいから、みんなの意識が変化したのかな。FANTASTICSは、自分たちでいちから作ってきたグループなんだって認識が芽生えてきたのを感じました。ボーカルの2人はそれまでステージに立ったことがないですから、夢者修行をしてきたパフォーマーがその経験を踏まえて、2人にアドバイスをしたり。よりいいパフォーマンスができるように、仲間で意見を言い合える環境が自然とできてきました。

——世界さん、今のFANTASTICSはデビューに向けて、順調に成長を遂げていると感じていますか？

世界:僕らが求めているFANTASTICS像にはまだ遠いと思いますけど、メンバーそれぞれに理想像があって、それをみんなでもみあって削りあって高めあっていけたらと思います。そうすれば全員が望む理想のチームができ上がっていくと思います。デビューはその一歩。みんなで「せーの!」で踏み出す感覚を持てるのがこのデビューのタイミングなんだと思います。これまでもたくさん大きな舞台を踏んできましたけど、全員がそれぞれFANTASTICSを走らせるぞ!って感覚があるんじゃないのかな。

——例えば、そうですね、木村さん。どんな理想像を持っていますか？

木村:FANTASTICSは、一人ひとりの個性が本当にバラバラなんです。そこが面白いなと思っています。パフォーマーだけでも、それぞれの好きなダンスのジャンル、得意なジャンルはバラバラです。パフォーマンス、歌でもいろんなふり幅で楽曲を表せるとしています。本当に老若男女に愛されるグループになっていけたらなと思いますね。

——それでは「OVER DRIVE」の話を。この曲はずっとパフォーマンスしてきた楽曲。

世界:進化、変化してる曲ですね。振り付けも、パターンでいうと5パターンぐらいあるんじゃないかな……。

佐藤:細かく分けたらもっとありますよ、めちゃくちゃある(笑) 今、パフォーマンスしているのはドーム用で、ソロで踊るパートもあって、長くなっています。ソロパートは世界さんでしめるんですけど周りでウォーって。はけてから、「今日良かったですね」なんて声かけあったり。

——ボーカルの2人にとっても、「EXILE Presents VOCAL BATTLE AUDITIONS ~夢を持った若者達へ~」の課題曲でしたし、ずっと歌い続けてきた曲。その時と比べたら、曲へのアプローチの仕方も変化してますよね。

中島:オーディションの時には、自分の想いをFANTASTICSのメンバーに届けようという想いでしたけど、それが今は9人の想いを込めています。前向きな新しい世界を切り開いていこうという疾走感がある曲ですし、グルーヴィーな曲なので、リズム感も感じながら、いろんなことを吸収しながら歌っています。今のFANTASTICSにとっても合っている曲なので、これからもっと追及していけば、さらにいい曲になると思います。

八木:前よりもよりいい「OVER DRIVE」を届けられている感覚はあります。何度も歌ってきた曲ですし、今は自分1人ではなく2人。キーが高い部分は僕が歌わせていただくことが多いんですけど、追いかけてクルールな部分を颯太が担ってくれています。お互いに歌い方を提案したり、自分がレッスンやレコーディングでもらったアドバイスを共有したり、話をしながら歌っています。2人で高め合うことで、いい作品になったと思います。

——お話ししているとグループの仲のいい雰囲気はにじみ出ています。それぞれ一生懸命で、それを世界さんがどんと構えて見守っている。

瀬口:パフォーマー、アーティストとしての居方を教えてくれています。追いつけるように学ぶことはたくさんありますね。

——あの、すいません。先ほどから、佐藤さんと瀬口さんがニヤニヤしたり、澤本さんがクスクスしてるのは……なぜなのでしょう(笑)。

世界:ファンタ(FANTASTICS)はゲラが多いんですよ。楽屋もいつも笑い声があふれている感じで、たぶん、メンバーがビシッと真面目な話をしているのが面白くて笑っちゃうんだと思います(笑) ……それで、先ほどの話の続きというか。ファンタの中にももちろん先輩後輩はあるんですけど、先輩先輩ないようにしようと思っています。僕らはチームメンバー。厳しく言うし、言われるし、お互い尊敬し合っています。

——グループ内の年齢差は8歳ですけど、その年の差は大きい？

世界:僕が19の時、27とか28とかはおじさんでした、正直(笑) でも僕はみんながカッコいいなと思っていました。自分もそうなれてほしいな。みんな:カッコいいですよ!

瀬口:今、EXILEさんのドームツアーに帯同してるんですけど、世界さんと大樹さんはEXILEでもありますから、2時間半ぐらい踊ったうえで、FANTASTICSとしてパフォーマンスしているんです。そのたびに思えますよ、すごいなって。

佐藤:EXILEとFANTASTICSのダンスって、体の使い方が全然違うんです。だから、パフォーマンスが終わった後、世界さんと僕は満身創痍(笑) それでもやっぱり、ファンタ(FANTASTICS)でステージに出るときはテンションあがります。

——さて、これで、みんなで「せーの!」でスタートを切るわけですが、今後、FANTASTICSはどうなっていくのでしょうか。

佐藤:みんな人を喜ばせるのが好きなので、いろいろな楽曲が揃ったら演出でこだわりたいと僕は思っています。曲もいいんだけど、「FANTASTICSはライブがすごいおもしろい」と思われたい。そんなグループになれたらと思います。

デビューシングル NOW ON SALE!! OVER DRIVE

タイトル曲、「WHAT A WONDER」を収録。CD+DVDは1667円(税抜き)、CD ONLYは1111円(税抜き)。ともに税別。CD+DVDのDVDにはタイトル曲のミュージックビデオを収録。rhythm zoneより発売。
オフィシャルサイト(<https://m.tribe-m.jp/Artist/index/168>)

撮影:辰根 東剛

岡山はすごく熱気がある人が
多いというのを聞いていましたが、
それを実感できました。佐藤大樹



ライブやツアーで、また岡山に
来れるように頑張ります！ 世界

FANTASTICS from EXILE TRIBE 岡山スペシャルインタビュー&メッセージ

——ボーカルのお二人へオーディションを受けた経緯を教えてください。

中島颯太:LDHで活躍するアーティストの皆さんに憧れがあり、歌手になりたいという夢を持っていました。去年のパフォーマーだけの武者修行を観客として観に行き、ダンスだけで魅せるエンタテインメントに感銘を受けました。FANTASTICSのボーカルを決める「EXILE Presents VOCAL BATTLE AUDITIONS ～夢を持った若者達～」が開催されることを知り、人生をかけて勝負してみようと思ったのがきっかけです。

八木勇征:僕は、人前で歌を歌うことが恥ずかしいと思っていたんですけど、中学生の頃にギターをやっている友達が『僕がギター弾くから勇征歌ってよ!』と言ってきて、人前ではじめて歌を歌いました。聴いてくれた周りの友達が『めっちゃ感動したよ!』と感想を言ってくれたときに自分の歌で周りの人に何か感じてもらえるんだなと思い、アーティストになりたいという夢を抱きました。ずっとサッカーをやっていたんですけど、大学の時に怪我をしてしまって、そのタイミングでFANTASTICSのボーカルを決めるオーディションが開催されることを知りFANTASTICSのボーカルになりたい! グループの一員として歌いたい! という思いが強くなっていったのがオーディションを受けたきっかけです。

佐藤大樹さん、映画『ママレード・ボーイ』で共演した
桜井日奈子についての印象をお聞かせください。

——夢を叶えるのに大事なことは?

中島颯太:周りの人に自分の夢を共有することだと思います。家族や学校中の友達が僕の夢を知っているくらい周りに歌手になりたい! と言っていました。言霊って大事だと思います。

八木勇征:僕自身、なかなか踏み出せずにいたんですけど、心の中に秘めた諦めない気持ちがあったからこそ、今の僕があると思っていますので、諦めない気持ちが大事だと思います。

——岡山での夢者修行のエピソードや思い出はありますか?

瀬口黎弥:THE RAMPAGE from EXILE TRIBEの山本彰吾さんのご両親から差し入れできびだんごを頂きました。岡山の夢者修行では、たくさんの方が来てくださって凄い盛り上がりで歓声でした。野外会場だったのでいい空気を感じながらパフォーマンスできました。

——岡山の印象・行きたい場所はありますか?

澤本夏輝:岡山は、夢者修行FANTASTIC9で来させていただいたので

ですが、お客さんがあたたかいイメージがあります。行きたい場所は、デニムが好きなので児島の桃太郎ジーンズのお店に行きたいですね。あと、鱈とかも有名ですよ! 夢者修行で来た時に岡山について調べたんです。

木村慧人:岡山の桃太郎のイメージが強いで、いろんな味のきびだんごを巡って食べてみたいです。

堀夏喜:僕は好きなブランドのジーンズを作っている所があるのでよく行ってみたいです。ゆっくり観光も楽しみたいです。

——岡山(中四国)のファン・読者にメッセージを。

佐藤大樹:岡山はすごく熱気がある人が多いというのを聞いていました。夢者修行FANTASTIC9で来させていただいた時に、それを実感してあの熱狂をもっと大きなステージで感じたいと思ったのでいつかライブが出来るように頑張りたいと思います。

世界:右に同じです!(笑) 岡山はなかなか来る機会が少ない土地ではあるんですけど、その分来た時にはたくさん盛り上がりて頂きたいなという思いがFANTASTICS一同あるので、ライブやツアーでまた岡山に来れるように頑張ります!

“岡山の奇跡”として注目を集められている、桜井日奈子さんとは、2018年に公開された映画『ママレード・ボーイ』で共演させていただいたのですが、いい意味で女性っぽくなくて、共演者の方々への気配りだったり、作品を盛り上げようという思いがすごく伝わってきてほんとに彼女の虜になりました。岡山のこともすごくPRされていて僕も岡山に興味を持ってましたし、もう一度共演したいと思える素敵な女優さんです。



11.17 SAT PHOTO REPORT

THE RAMPAGE

FROM EXILE TRIBE JAPAN MOVE UP-special edition vol.17-
 special guest: 陣 / RIKU / 山本彰吾 @イオンモール岡山 1F 未来スクエア

11月17日、イオンモール岡山の未来スクエアにてTHE RAMPAGE from EXILE TRIBEから陣、RIKU、山本彰吾を迎えたラジオ公開収録が行われ会場は多くの来場者で溢れかえった。収録では、山本彰吾さんリクエスト曲の「New Jack Swing」が流れると、イントロ部分を3人が順番に歌う場面があり、イベント中最大の歓声があがった。公開収録恒例となっている、来場者からの質問コーナーでは、夢を叶えるための秘訣や“平成最後”にちなんだ今年一番の出来事など様々な質問に回答し、イベントは大盛り上がりとなった。



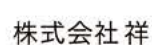
今回の収録の様子は、Podcastにてノーカット版 配信中心!!

JAPAN MOVE UP supported by TOKYO HEADLINE

日本を元気に!! | TOKYO FM (80.0MHz) 毎週土曜日 21:30~21:55

「日本を元気に!」をテーマに、毎回各界の著名人をゲストにお招きし、元気になるためのトークをしています。リスナーの方が思わず元気になるトーク満載で、東京で絶賛放送中です。

<http://www.jfn.co.jp/moveup/>





Lee GROUP

株式会社 WORK SMILE LABO

special partner

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
イオンモール岡山

photography: 戸板 直哉 (QUATRO PHOTODESIGN)



EVENT REPORT

11.17

SATURDAY

STUDIO MOVE UP



MEMBER of MOVE UP CLASS **RINA**

今回のイベントを見て下さった方々ありがとうございました！最高のステージになったと思います！貴重な機会がありました。そして沢山の勇気の方の支えがあり、たくさんの出会いがありました。そしてただただこがえました。毎週通えること、貴重なイベントに出させていただけだと、このメンバーに出会えたこと、本当にこの環境に有り難みを感じています。

MEMBER of MOVE UP CLASS **MAKO**

この度のラジオ公開収録に足を運んでくださった皆さまありがとうございます！私は今回で3回目のオープニングアクトダンサーという貴重な体験をさせていただき、とても感謝しています。夢のようなキラキラと輝いたステージで踊れたこと、MOVE UPのメンバーに出会い共に汗を流した時間は大切な思い出です！

MOVE UP CLASS
KERU/RINA/MAKO/
HONOKA/KAZUHA/
NOA/KOKORO/MIYU

KIDS CLASS
YUZUHA/UTAHA/MIZUHO/
AYAME/KANON/AKANE/
YOSHICA/AYANO/HINA/YUME



スタジオムーブアップでは
無料体験レッスン・見学も受付中です!!

スタジオムーブアップでは受校生を募集中です。初心者からダンス経験者まで幅広い生徒が在籍中!フェアレーン岡山の一階にあるスタジオで、日々猛特訓中!イベントの時にはオープニングアクトとして練習の成果を発表する舞台もご用意!ダンスが好きの方、体を動かすのが好きな方、是非私たちと一緒にイベントを盛り上げましょう!

お問い合わせ **お電話** **086-250-8089** (平日13:00~18:00)

メール **info@japanmoveupwest.com** 株式会社HEADLINE WEST

**受校生
大募集**

あなたもスタジオムーブアップの一員になってイベントを盛り上げませんか?

気づけばこの連載も76回目、今までいろいろなことを好き勝手に喋らせていただいておりますが、あらためて読み返してみると、何か自分の日記を読んでいるみたいな感覚になります(笑)。ちょうど1年前の、2017年11月は、EXILE THE SECONDのツアーが始まったことが書いてあり、学生だったことも書いてありました! 大学院を卒業してからまだ1年も経っていないことにビックリするとともに、自分の中ではもう何年も前の出来事のような感覚です。

先日、大学院の同級生である青山学院大学駅伝部の原監督が、出雲駅伝に次いで全日本大学駅伝でも優勝し、大学駅伝2冠を果たしました。同級生と一言で言うにはかなりおこがましいのですが、活躍されている姿に勇気とパワーをいただきました! 今ではすっかり僕も大学駅伝ファンです(笑)。お正月の箱根駅伝もしっかりと応援したいと思いますので、監督も選手の皆様も頑張ってください。

自分も見習って、今まで経験してきたことや勉強したことを、存分に生かしてDANCEの道を切り拓いて行きたいと気が入りました!

さてそんな中ですが、先日ツアーの合間に、久しぶりの海外に行ってきました。行き先は南国タヒチ。撮影で行ったのですが、僕はコーヒーの他に実はスキューバダイビングのライセンスを持っています。それを知ってくださった雑誌『月刊DIVER』さんから、お話をいただき、海の中はもちろん、タヒチのたくさんの素敵な場所で撮影をしていただきました。

ダイビングは久しぶりだったのですが、やはり海の中って宇宙ですね。普段生活している地上では考えられないような光景があたり一面に広がり、間違いなく人間は住むことができない場所だし、長い時間潜ってもいられないからこそ魅力的で何度も潜って見に行きたいと思うんでしょうね。生き物の生活やさまざまな地形、海流に水圧、光と影が織りなす幻想的な景色は、とにかく僕に刺激を与えてくれます。この経験が、直接DANCEにはつながらないかもしれませんが、今まで知らなかった世界を体験することが、これからの自分の表現に何かしらの影響を与えてくれるような気がしてワクワクしています。まだまだ、見たことのない素晴らしい海中がたくさん世界中にあると思うので時間を見つけて潜りに行きたいと思います。なので、どこかオススメの

ダイビングポイントがあったらぜひ教えてください。

普段あまり撮らないような写真や、素敵すぎる海の中の世界をお届けできると思いますので、12月10日発売の月刊DIVERをぜひ楽しみに!!

南国から日本に帰ってきたら、もう紅葉が見頃の季節になっていて、今年ももう残りわずかだと気づかされました。2018年はみなさんにとってどんな年になっていますか? この年末が過ぎれば、平成最後の日までのカウントダウンが始まります。そして、新しい年号になった次の年には、2020年の東京オリンピック、パラリンピックの開催などさまざまなことが次々と起こります。歴史的な瞬間を皆さんと一緒に笑顔で健康に迎えることが、僕の今の目標になっています。

幸せなことに、やるべきことや成し遂げたいこと、叶えたい夢を並べてみると、たくさんあり過ぎて“時間が全然足りない!”なんて思ってしまうのですが、焦らずに一つひとつ形にしていくこと。そして、それを継続することがとても大事だと思います。



まずは、現在行われているEXILEのLIVEツアーを無事に最後まで踊りきることが、僕にとっての目の前のやるべきことですが、来年も再来年も、そして2020年以降も皆さんと一緒にワクワクし続けて行きたいと思っています。だからこそ今、僕たちが準備していることやチャレンジしていることを、一つひとつ形にし、それを皆さんと共有することこそが、夢に繋がっていると信じています。

少しだけ熱く語ってしまいましたが、あと少しの2018年をどれだけHAPPYでいられるか、皆さんぜひ一緒に競争しましょう(^o^)

TOKYO HEADLINE vol.712 より

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日にEXILE新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILEとしても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊EXILEにて、自身が所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月にEXILE USAが活動を行っているDANCE EARTH PARTYの正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

JAPAN MOVE UP WEST PRESENT'S

MOVE UP MOVIE

powered by



人生が「アがる」作品を、あなたに。

『2018年度映画感想画コンテスト推奨作品』特集!!

中国・四国エリアにて『映画感想画コンテスト』が今年も開催決定!

好きな映画の心に残ったシーンや感動シーンを描いて応募する『映画感想画コンテスト』も今年で第4回目。

今月はコンテストの開催を記念し、『親子で観たいこの冬オススメの作品』をピックアップ!

ぜひ推奨作品を観て、コンテストへの参加をお待ちしております!



Title
グレイテスト・ショーマン

Maker
20世紀フォックス・ホーム・エンターテインメント・ジャパン

Comment from TSUTAYA
『「ララランド」制作陣が再タッグ!』

アメリカで活躍した伝説のエンターテイナーであるP・T・バーナムが人々を熱狂させていく姿を描くミュージカル作品。苦しみの中でも自分を誇り、果敢に人生を歩んでいくんだという力強いメッセージ性の楽曲の数々は全ての人に輝く舞台があるのだと感じさせてくれます。

© 2018 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.



Title
犬ヶ島

Maker
20世紀フォックス・ホーム・エンターテインメント・ジャパン

Comment from TSUTAYA
『日本への愛とリスペクトが盛りだくさん』

舞台は近未来の日本。追放された愛犬を救うため犬ヶ島にやってきた少年と、島に暮らす犬たちの絆を描く冒険物語。全編ストップモーションアニメなのですが、まるでおもちゃ箱を開けたかのような色とりどりでワクワクする場面の数々に心躍る作品です!

© 2018 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.



Title
モンスター・ホテル
クルーズ船の恋は危険がいっぱい?!

Maker
ソニー・ピクチャーズエンタテインメント

Comment from TSUTAYA
『怖さはなく、むしろ可愛いキャラクター』

ドラキュラが支配人を務めるモンスターたちのためのホテルを舞台にしたアニメ。歌って踊るモンスターたちに癒やされながら子供も大人もほっこり楽しい気分になさしてくれる作品です。誰も傷つけない安定のストーリーも健在!

© 2018 Sony Pictures Animation Inc. and MRC II Distribution Company LP. All Rights Reserved.



Title
ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅

Maker
ワーナー・ブラザーズ ホームエンターテインメント

Comment from TSUTAYA
『魔法世界のワクワク感がUP!』

不思議な生物が詰まったトランクを手にニューヨークへ渡った魔法動物学者が、そのトランクから動物を逃がしたことから始まる大騒動を描くファンタジー作。子供だけでなく「ハリー・ポッター」シリーズと共に年齢を重ねた大人も自分を重ねて楽しめる作品です!

© 2016 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved.
Harry Potter and Fantastic Beasts Publishing Rights © JKR.



Title
ジュラシック・ワールド/炎の王国

Maker
NBCユニバーサル・エンターテインメントジャパン

Comment from TSUTAYA
『新たな恐竜も登場!』

『ジュラシック・ワールド』の続編にして、新たな3部作の2作目にあたる本作。舞台を島からアメリカ本土に移し、「対恐竜」に加え、「対人間」の視点を持ち込み、ドラマ性もアップしています。もちろん前作同様、新種の恐竜が登場&大暴れ!

Film TM & © 2017 Universal Studios & Amblin Entertainment, Inc. All Rights Reserved.
Artwork © 2018 Universal Studios. All Rights Reserved.



Title
ワンダー 君は太陽

Maker
カルチュア・パブリッシャーズ

Comment from TSUTAYA
『「やさしさ」はこの世界のワンダー』

外見からわかる先天性の障害がある少年オギーが、困難に立ち向かう姿を描くヒューマンドラマ。主人公の成長物語かと思いきや、あらゆる人々の視点から悩みや想いが描かれていて、行間を感じるそれぞれの優しさが胸をつく感動作。万人に観てもらいたい傑作です。

Wonder © 2017 Lions Gate Films Inc. and Participant Media, LLC and Walden Media, LLC.
Artwork & Supplementary Materials © 2018 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved.

描くと映画は、2度楽しい。

映画感想画コンテスト

募集期間 2018年12月17日(月)~2019年1月27日(日)

主催/映画感想画コンテスト実行委員会
後援/各地区教育委員会(一部申請中)
協賛/20世紀フォックス ホーム エンターテインメント ジャパン株式会社、株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント、ワーナー ブラザーズ ジャパン株式会社、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
協力/ NBCユニバーサル・エンターテインメントジャパン株式会社

映画を観て、感想や印象に残ったシーンを絵にしてみよう!

題材にする映画は、自由にお選び頂き、その映画の印象的なシーンや、心に感じたことを絵に描いて送ってください。

応募形式	●寸法…四つ切り(54cm×38cm)サイズの画用紙に描くこと。それより小さな用紙に描いた場合は、四つ切りサイズの画用紙に貼り付けること。 ●用紙…画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。 ●画材…クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・貼り絵も可。
応募先	【郵送】〒811-1399 日本郵便株式会社 筑紫郵便局 私書箱第2号 「映画感想画コンテスト」係 【持参】TSUTAYA店舗(中四国/九州/沖縄エリア)
表彰	【小学生低学年部門】最優秀賞1名、優秀賞17名(各県1名) 【小学生高学年部門】最優秀賞1名、優秀賞17名(各県1名) 【中学生部門】最優秀賞1名、優秀賞17名(各県1名) 【一般部門】最優秀賞1名、優秀賞17名(各県1名) ※コンテストの結果は、ホームページ上で、2019年3月中旬に発表予定です 映画感想画コンテスト ホームページ http://tsutaya.jp/mov-cont2018/ ※受賞結果の連絡をメールで希望される方は、2019年2月16日までに右記アドレスにメール(件名・本文不要)をお送りください。 mov-cont2018@ccc.co.jp
ご応募に際して	ご応募の際の詳細はホームページをご確認ください。 http://tsutaya.jp/mov-cont2018/ (※ホームページは2018年12月17日よりオープン)

01.チーム内でのニックネームは？

—— **じゅんき・じゅんき君**

02.よく聴くアーティストや曲は？

—— **Mr.Children** 試合前とかによく聴くかな～
好きな歌は“忘れ得ぬ人”

03.カラオケの十八番は？

—— **“めざせポケモンマスター”** (笑)
最初に歌いやすいから！

04.子供の頃はどんな子供だった？

—— **やんちゃ坊主!**
木に登って頭から落ちて血だらけになったり…笑

05.「オレってかっこいいな」と思う瞬間は？

—— **う～ん。いっぱいあるな～!** (笑)
気の遣えるところとか。ジェントルマンなんだよね～
そういうの自然とやっちゃうタイプです! (笑)
この前 **#26まつけん** (松本選手) と俺らのモテポイントって
どこだろうって話をしてて (笑)

06.オフの日の過ごし方は？

—— **温泉行ってランチに行きます!**
自転車に乗ってカフェ巡りして美味しいところを探してます。
ちっちゃい自転車に乗ってます。(笑)

07.仲の良いチームメイトは？

—— **#10大竹です!**
しょっちゅう一緒にいます。(笑)

08.チームメイトと1日入れ替わるなら誰になって何をしたい？

—— **#16リカ** (リカド選手) に **なって陽気に1日を過ごしたい!**
普通に“Hi～♪”とか言って挨拶してみたい。
僕では、絶対に出来ないので!!

09.デートで行きたい場所は？

—— **日本のエーゲ海 “牛窓”**
エーゲ海も行ったことないけどね…。(笑)

10.チームメイトの秘密をひとつ教えて!

—— **#17健二** (関戸選手) は、自分から喋ることは
あまりないけど何か喋りたいときは
ニヤニヤしながら近寄ってくる! (笑)
そんなときは、話しかけてくるな～って察して待ってます!

11.女性の好きな冬の服装は？

—— ロングコートにタイツにブーツ!あと、それにマフラーですね。
シンプル な服装が好きです。

取材日:2018年11月8日

金山隼樹 -かなやま じゅんき-1988年6月12日 186cm/80kg 島根県出身

今季より、ファジアーノ岡山のGKとして活躍している笑顔が印象的な金山選手。
撮影中もカメラに向かって照れながらも壁ドンポーズをしてくれたり、ノリがよく合間でも終始
キラキラ笑顔で場を和ませてくれました。また、チームメイトの秘密をひとつ教えて!の質問に
#5マグ(増田選手)は、笑いの沸点が低い!いつも、引き笑いをしてみんなに笑いを求めてく
る。けど、これ秘密ではないよな～。と一生懸命チームメイトのエピソードを考えてくれる真面目
な一面も見せてくれました。



GK13

54 × JAPAN MOVE UP WEST



vol.5 金山隼樹

もっと!! インタビュー選手の素顔が見える!!
JMUW WEB限定

JAPAN MOVE UP WEST×ファジアーノ岡山



Please answer in 5 seconds!
5秒で答えて!
配信中!!
金山選手は12月12日(水)配信!!

WEB限定プレゼントもあります! <https://www.japanmoveupwest.com>

選手のここで見える事の出来ない素顔を知って地元Jリーグチームを応援しよう!

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS) ©2017 F.O.S.C.

DJ Diddy

ディージャー ディディー

いつまでも初心を
忘れたくない。

玉川(以下、玉):DiddyがDJを始めたきっかけは?

Diddy(以下、D):元々HIPHOPが好きで、地元のライブハウスによく先輩たちと遊びに行っていたのがきっかけでした。僕は最初、ラップをやりたい。高校生の時も、進路希望調査用紙の1番上にラッパーって書いてたぐらいで(笑) ある日地元の先輩たちが主催するイベントに行った時、MCだけでなくDJの方もいて。それがまた僕の中のDJのイメージと全然違ってめちゃくちゃよかった。その時見たDJの方の選曲やスクラッチなんかのテクニックがまた凄かった。そんなことがきっかけでDJの世界に飛びこみました。それが19歳の時でしたね。

玉:演出者側として大切にしていることは?

D:やっぱりお客さんとしての聞く側の気持ちは常に忘れないこと。もちろん僕も音楽を始める前は聞く側の人間だったので、その時の初心の気持ちっていうのはこれからも大切にしていきたいですね。今でもクラブだったりライブだったり、お客さんとして遊びに行ってお客さんとして普通に遊ぶ時間を大切にしたりします。そうすると客観的にもなれるし、お客さん視線を思い出すことができる。そういう場面で得た沢山の気付きを自分のDJ活動に活かしたりしています。僕にとっては遊ぶことも勉強なんです。

玉:DiddyはシンガーのバックDJもしてたりするけど、そういった所で魅せていきたい部分ってありますか?

D:シンガーさんだったらその方の要望にどれだけ答えられるか、というところに重きを置いていますね。シンガーさんが主体のライブにご来場されるお客さんは、僕らが普段プレイしているクラブとは客層も異なっていることが多かったりするので、DJを通してクラブの楽しさも伝えていけたらという気持ちでやっています。クラブってどうしてもイケイケな人が行くイメージなんですよ(笑) だから楽しさを知る前に壁を作ってしまっただけ行かない人も多いと思うんです。そのイメージを払拭していきたいとか。こういった楽しさもあるんだよっていうのをどんどん伝えていきたいなと思います。

玉:これからの夢を教えてください。

D:今は「Red Bull Music 3Style」の日本大会に出ることが目先の目標でやっていますが、将来的にはやっぱり岡山からクラブを盛り上げていきたい。追々は、主催のイベントなんかをもっとやっていきたいですね。

玉:読者の方にメッセージをお願いします。

D:とりあえず、絶対会場を盛り上げるので、一度クラブに遊びに来てください(笑) みなさんは普段好きなアーティストさんのライブとかに遊びに行ったりすると思いますけど、それとほぼ同じ感覚で大丈夫。なので、クラブで待ってます!



DJ Diddy ディージャーディディー(写真右)
19歳から岡山を拠点にDJとして活躍中。

Interviewer 玉川 洋輔(写真左)
シンガーソングライター
facebook・Twitter・Instagram:
玉川洋輔で検索



子どもたちと一緒に 成長していきたい。

BAZ-K (以下、B) : 上昇するアイテムにメダルを選んだ理由を教えてください。

久安宏一 (以下、久) : もともと勤めていた会社の社長に勧められたのがきっかけでマラソンを始めたのですが、僕は何事も勢いで行ってしまうタイプなので、最初は仕方なくマラソンをやっていました。それから会社を独立することになって、最初はなかなか上手くいかないこともありました。だけど、マラソンをすることによって、自分に甘かったり、人に流されてしまったり、そういった自分のダメな部分を、勢いでマラソンにエントリーして、練習している時に補えている気があるんです。そういった時に自分の身の回りのことが上手くいっていますし、時間を有効に使えていると思います。マラソンがきっかけで自己管理もできていて、それが会社の仕事にも繋がっていると思うのでこれまでのマラソンに出場した際のメダルを選びました。

B: 有限会社ストロベリーを設立したきっかけは?

久: 当時、20代前半でこんな仕事をしたいという目標もない中で、今後は介護関係の仕事が必要になってくると思い、資格を取りに行き会社を設立しました。たくさんの職種がある中で、今後のことを考えて介護・福祉を選びました。

B: 大変だなと思うことはある?

久: 最初、会社をはじめた頃は介護をメインにやっていたのですが、現在は児童福祉をメインに仕事をしています。その中で、大変なのはやっぱり子どもたちの未来を背負っていかないとけない使命もありますし、もちろん責任感もあります。対、人ということは教科書通りにはいかないこともあって、障がいがあるお子様も一人一人が違う性格なのでそういったところは難しいところでもあります。スタッフみんなと相談しながらやっていくようにしています。そういった環境を整えていくことが僕の仕事だと思います。

B: この仕事をやってよかったと感じるのはどんなとき?

久: 子どもたちの成長が見れるということが一番大きくて、やっぱり最初は環境に慣れずに戸惑う子どももいますが、だんだん慣れてきて、下の子たちも入ってきたりすると、お兄ちゃんお姉ちゃんになっているという成長が見れたときですね。

B: 会社としてはどう?

久: 会社だけで考えると、スタッフのモチベーション管理や人材不足などがあるのですが、僕の会社はありがたいことに今は求人をかけると人材が集まってくれますね。施設が楽しく明るい場所だということを伝えるためにホームページの更新を頻繁にするようにしています。明るく楽しい環境は、スタッフが作ってくれていると思うので、親睦会を開催したりしてスタッフにも楽しんでもらえていることを実感できる時はやりがいを感じますね。

B: 久安さんの会社もスタッフの皆さんとても元気がよくて明るい方ばかりですね。社長自らスタッフを楽しませているところはとても尊敬しています。今後の夢や目標を教えてください。

久: 今は児童福祉を専門にやっているのですが、来年1月からアート教室もスタートします。その次の展開として、音楽教室も計画していて、いろいろな教室がある学校のような場所にしていきたいという思いがあります。どんな障がいを持っていても、その子たちがどの教室に行っても楽しめるような、そんな子どもたちを支援できる場所にしていきたいです。そのためには、スタッフも増やさなければいけないので会社の企業理念でもある「家族と楽しむ・仕事も楽しむ・大人を楽しむ」ということをみんなで共有しながらスタッフが働きやすく、楽しませられる環境もきちんと考えていきたいと思っています。

B: スタッフが楽しむことによって、子どもたちも楽しめる環境が自然にできますよね。良いお話をありがとうございました。

有限会社ストロベリー 代表取締役

久安宏一

Hisayasu Koichi



久安宏一 Hisayasu koichi (写真右)
有限会社ストロベリー 代表取締役

Interviewer BAZ-K (写真左)
株式会社バズクリエイション 代表取締役



チョークアートを通して 色んな人と出会いたい。

チョークアートTURURI TOWN代表

HIROKO

Profile

HIROKO

チョークアーティスト

岡山県在住 1984年10月6日生

2010年チョークアーティストの資格を取得後

TURURI TOWNを開業。

自身がチョークアーティストとして活動するかたわら

プロ育成の講師も勤めている。

Instagram @chalkart_tururi

―――上昇するアイテムにノートとペンを選んだ理由を教えてください。

H: HIROKO (以下、H) : 人と話すのが得意な方ではないんですが、例えば物を渡したり一言告げる時にイラストを描いて置いておくと相手に自分の本当の気持ちが伝わっている気がするんです。自分ももう一人いる感じでサラサラと描いて送ったりとか。あと、頭が整理出来ない時に紙とペンを持ってずっと落書きしたりしていると自分の気持ちが整理できるので必ず持ってないと落ち着かない物です。

―――チョークアートを始めたキッカケを教えてください。

H: 実家は岡山なんですが、千葉で生まれ育ちました。20代前半ぐらいまで接客業などもやりながら千葉にいたんですがある時、自分の道に迷ってしまって何がしたいんだろうと悩んだ時期がありました。その当時、絵は評価される物というイメージがあり絵を描くことが嫌いだったんですが、岡山に帰ってきた時に絵を描かせていただく機会がありました。その時に「良い絵描くね」と言っていたことがあったんです。その時に、絵はコミュニケーションの1つになるんだという事が分かりました。当時は色鉛筆を使って絵を描いていたのですが、違う物で挑戦してみたいと思った時にチョークアートの雑誌を読んで、教えてくれる人がいる事を知り、習い始めました。最初は全然上手く描けなくて、合わない! って思っていたんですが、悔しいからもう少しやってみたいと続けたのがキッカケで、絵で想いを伝える人になりたいと思いました。

―――チョークアートに出会った頃とプロとして始められてからとどういった心境の変化がありましたか?

H: その先にお客様がいるので、自己満足ではいけないという所と、お客様が満足してくれるということですね。チョークアートの内容は、ウェルカムボードやお店の看板だったり、一生に一度しかない場面で使ってもらえるものが多いので、そういった物を創っているという意識がしっかりないといけないと思う部分があります。なので、お客様との打ち合わせには一番時間をかけています。着色に入ってから自分ですっかり向き合っていくんですけど、そこまではお客様に協力してもらわないと出来無いことなので。

―――チョークで描く魅力はなんですか?


H: チョークアートのチョークは、皆さんが知っている学校で使っていたチョークとは違って、油がたっぷり入ったクレヨンに似た物(オイルパステル)と指の温度を利用して色と色の境目を馴染ませて、光と影を意識して立体感を出します。人間も顔や声が一人一人違うように、チョークアートも描く人によって全然違うものが完成するんです。手の温度も手の大きさも指の細さも違うのでその人にしか出せない表現があるという事と、バックが黒の背景が多いのでハッキリとした発色で遠目から見ても存在感がある絵になる所はチョークアート特有です。

―――作品に取り組む上で気をつけている事はありますか?

H: なぜ、私を選んでくれたのか? という事は常に考えています。チョークアートに限らず人って、自分がやっていることに本気になればなるほど他人のことが気になってしまったりすると思うんです。ですが、上手さとか凄さではなく私という人と作品と一緒に見て選んでくれていると思うので、私を選んでくださった意味を考えながら作品に取り組んでいます。

―――夢や目標を教えてください。

H: とても笑われるような、夢を持っています。チョークアートというよりは、チョークアートを通して色んな人と出会っていきたくいです。チョークアートを通してやってみたい事もあるんですけど、その中で自分は昔の教育テレビにいたノッポさんとかミッキーのような誰もが知っていて皆が私を見て、「アイツは今から何を書くんだろう?」と思われるそんな人になりたいです。型にはまる凄さを求めるのではなく、その人にしか出せない物をその人がどうしていくのかを教えていける人になりたい。正解の無い一人一人の様々な表現の仕方を楽しみながら教えていけるような人になりたいです。やりたい事が無限すぎて困っているのですが、たくさん人の心を解放できるような活動を今後もしていきたいです!



JAPAN MOVE UP WESTの更なる活動の浸透と広がりを実現するために、
より具体的かつ大胆に様々なジャンルの“Rise!～上昇～”をバックアップ。自身の心にある熱い想い、夢などを聞く。
Rise!の先には必ず人間の生きる意味、生まれてきた意味が見えてくると確信する。

JAPAN MOVE UP WEST



02 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **NEXTER**

久安 宏一



01 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **STREET**

HIROKO



03 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **ARTIST**

DJ Diddy



JAPAN MOVE UP WEST

54

Rise! FRONT INTERVIEW

STREET HIROKO



Rise! INTERVIEW
NEXTER 久安 宏一

Rise! INTERVIEW
ARTIST DJ Diddy

FAGIANO OKAYAMA
金山 隼樹

